

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	国語表現			
3	国語	国語表現	2	松下 広希	必修	副教材名	国語表現 基礎練習ノート			
科目の目標		①進路活動を意識した実用的なスキルと、生涯にわたって言語生活を豊かにする態度を身につける。 ②「とままえ学」や「総合的な探究の時間」と連携し、分析・総合する力を身につける。								
学習の内容と進め方		①履歴書や小論文作成等を意識した「書く作業」、面接等を意識した「話す・聞く作業」を偏りなく進める。 ②商業科と連携し、「販売実習会」や「体験発表会」における具体的な作業を意識した内容を盛り込む。								
学習の留意点		言語を使って意思の疎通を図るための様々な方法を意識するとともに、スキル向上のための知恵を得る。								
評価の観点	知識・技能	国語の特質を理解し、適切に使っている。								
	思考・判断・表現	各領域において、他者との関わりの中で伝え合う力を高めている。								
	主体的に取り組む態度	「学習の留意点」に沿って、積極的に作業に参加し、言語感覚を磨き、言葉の効果的に使って伝える姿勢で取り組んでいる。								
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	場面に応じた適切な表現や言葉遣いについて理解し、適切な表現で伝えている。							
		C	Bの状況に達成していない段階である。							
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	「話すこと・聞くこと」において、相手の主張を理解し、自分の意見や思いを伝えている。「書くこと」において、場面や相手に応じた分かりやすい文章で表現している。「読むこと」において、文章の意図を適切に読み取っている。							
		C	Bの状況に達成していない段階である。							
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	伝えようという意図を持って自分の思いをまとめようとし、適切な表現を選択しようとしている。							
		C	Bの状況に達成していない段階である。							
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等		
一 学 期	4	20	3 小論文・レポート入門	<ul style="list-style-type: none"> ・「作文」と「小論文」の違いを理解する。 ・文章の構成を工夫する。 ・自分の意見を持ち、それについての反証を想定する。 ・統計やデータを適切に処理する。 ・課題文型小論文を題材に、読み取る力を身につける。 ・進路希望先に合わせた実践的な小論文を作成する。 	○	書く	○	観察・作業		
		0								
		0								
		0								
		0								
		0								
	5	0	0	4 自己PRと面接	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を客観的な文章にする。 ・自己PRのポイントを整理する。 ・販売する商品にまつわる「物語」を考える。 	○	話す	○	観察・作業	
										0
										0
										0
										0
										0
6	0	0	表現を楽しむ		○	書く	○	観察・作業		
									0	
									0	
									0	
									0	
									0	
小計	26									
二 学 期	8	2	4 自己PRと面接	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望先と自分自身とのマッチポイントを整理する。 ・志望理由、志望動機を作成する。 ・履歴書、自己推薦書を作成する。 ・面接(個人・集団)の形式を理解する。 ・面接(個人・集団)の形式を理解する。 ・クラス内で、グループごとの面接、もしくはリモート面接を実施する。 	○	話す	○	観察・作業		
									8	
									0	
									0	
									0	
									0	
	9	12	0	5 メディアを駆使する	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアと情報についてより深い理解を得る。 ・スピーチの工夫を考える。 	○				
										0
										0
										0
										0
										0
10	0	0	6 会話・議論・発表	<ul style="list-style-type: none"> ・説明すること、報告すること、提案することを別した原稿を作成する。 ・発表者への質問を想定し、その回答を考える。 						
									0	
									0	
									0	
									0	
									0	
11	0	0	表現を楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業制作 原稿用紙20枚以上の小説・エッセイを書く 	○	書く	○	観察・作業		
									0	
									0	
									0	
									0	
									0	
小計	30									
三 学 期	1	4								
									0	
									0	
									0	
									0	
									0	
	2	0	0							
										0
										0
										0
										0
										0
3	0	0								
									0	
									0	
									0	
									0	
									0	
小計	4									
合計	60									

令和8年度 シラバス

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	高校生の地理総合（帝国書院）																																																									
3	地歴	地理総合	2	虎野 正嗣	必修・選択	副教材名	高校生の地理総合ノート																																																									
科目の目標		社会的現象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の祖地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。																																																														
学習の内容と進め方		・地図や地理情報システムで捉える現代世界、国際理解と国際協力、自然環境と防災の内容について学習し知識と判断力を身につける。 ・地理に関する身近な話題について考える。 ・講義形式で展開するため、ノート、プリント、課題等は丁寧に記録すること。																																																														
学習の留意点		・日常の報道ニュースより地理的話題に興味関心を持ち、世界のどこで起こっているのか世界的視野で考える。 ・課題解決学習に取り組み、考察を深める。																																																														
評価の観点		知識・技能 地理に関する知識が身につけているか、資料を活用できているか。 思考・判断・表現 地理的事象を多角的にとらえ、その影響や意義を判断し表現できるか。 主体的に取り組む態度 地理に関し興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。																																																														
評価規準		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="3" style="width: 10%;">知識・技能</td> <td style="width: 5%;">A</td> <td style="width: 15%;">Bを上回る状況を達成している。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>地理に関する知識が身につけているか、資料を活用できているか。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>Bの状況に達成していない。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="width: 10%;">思考・判断・表現</td> <td>A</td> <td>Bを上回る状況を達成している。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>地理的事象を多角的にとらえ、その影響や意義を判断し表現できるか。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>Bの状況に達成していない。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="width: 10%;">主体的に取り組む態度</td> <td>A</td> <td>Bを上回る状況を達成している。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>地理について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>Bの状況に達成していない段階である。</td> <td colspan="4"></td> </tr> </table>						知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					B	地理に関する知識が身につけているか、資料を活用できているか。					C	Bの状況に達成していない。					思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					B	地理的事象を多角的にとらえ、その影響や意義を判断し表現できるか。					C	Bの状況に達成していない。					主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					B	地理について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。					C	Bの状況に達成していない段階である。				
知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。																																																														
	B	地理に関する知識が身につけているか、資料を活用できているか。																																																														
	C	Bの状況に達成していない。																																																														
思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。																																																														
	B	地理的事象を多角的にとらえ、その影響や意義を判断し表現できるか。																																																														
	C	Bの状況に達成していない。																																																														
主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。																																																														
	B	地理について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。																																																														
	C	Bの状況に達成していない段階である。																																																														
学期	月	予定 時数	単 元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等																																																								
					知	思	主																																																									
一 学 期	4	1	1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界	オリエンテーション				ノート ワーク プリント 課題 小テスト 発表																																																								
		2																																																														
		2																																																														
	5	1	1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図	1 地球上の位置と地上の現象 2 経度の違いと時差 1 地図の種類 2 地理情報システムの利用	○	○	○																																																									
		2																																																														
		2																																																														
		2																																																														
	6	2	2部 国際理解と国際協力 1章 世界文化の多様性と国際理解 序説 世界文化の多様性 1節 世界の地形と人々の生活	1 国家の領域と国境 2 地図から見る日本の位置と領域 1 グローバル化と多様な結びつき 2 拡大する貿易 3 世界を結ぶ交通・通信 4 観光と人の移動のグローバル化	○	○	○																																																									
		2																																																														
		2																																																														
7	2	2節 世界から見る国内や国家間の結びつき	1 世界文化を考察する視点 1 生活と地形の関わり 2 河川が作る地形と人々の生活 3 海岸の地形と人々の生活 4 水河地形・カルスト地形・乾燥地形と人々の生活	○	○	○																																																										
	1																																																															
	1																																																															
	0																																																															
小計		27																																																														
二 学 期	8	1	3節 世界の産業と人々の生活	3 乾燥帯の気候と人々の生活 4 温帯の気候と人々の生活 5 亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活 1 生活を支える農業の発展 2 生活を支える工業の発展 1 宗教・民族・言語の多様性 1 国際理解を深めるために 2 世界から見た日本の生活文化			○	ノート ワーク プリント プリント 課題 小テスト 発表																																																								
		1																																																														
		1																																																														
	9	1	4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 5節 多様な生活文化と地理的環境	1 地理的課題と解決に向けた目標 1 人口の増加と少子化・高齢化 2 地域で異なる人口問題と取り組み 1 飢餓と飽食 1 都市への人口集中 2 地域で異なる都市・居住問題の取り組み 1 広がる感染症と衛生問題 1 限りある資源・エネルギー 2 地域で異なる資源・エネルギー問題と取組	○	○	○																																																									
		2																																																														
		2																																																														
		2																																																														
	10	2	2章 地理的課題と国際協力 序説 複雑に絡み合う地球的課題 1節 人口問題	1 国境を越えて広がる地球環境問題 2 地球温暖化と国際的な取り組み	○	○	○																																																									
		2																																																														
		2																																																														
11	1	4節 感染症・衛生問題 5節 資源・エネルギー問題	1 国境を越えて広がる地球環境問題 2 地球温暖化と国際的な取り組み	○	○	○																																																										
	2																																																															
	2																																																															
	2																																																															
12	2	6節 地球環境問題	1 国境を越えて広がる地球環境問題 2 地球温暖化と国際的な取り組み	○	○	○																																																										
	1																																																															
	2																																																															
	2																																																															
小計		28																																																														
三 学 期	1	1	3節 気象災害と防災	4 火山災害と地域の取り組み 5 地震・津波や火山活動への対策と共生の道 1 ささまざまな気象災害 2 気象災害と地域の取り組み 3 気象災害への対策と備え 1 減殺への取り組みと被災地への支援 1 地理的な調査テーマの設定 2 事前調査と現地調査 3 調査結果の分析と仮説の検証 4 調査結果のまとめと地域づくりへの参画			○	ノート ワーク プリント 課題 小テスト 発表																																																								
		2																																																														
		0																																																														
	2	0	4節 自然災害への備え 2章 生活圏の調査と地域の展望		○	○	○																																																									
		0																																																														
		0																																																														
		0																																																														
小計		5																																																														
合計		60																																																														

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	歴史総合（実教出版）	
3	地歴	歴史総合		虎野 正嗣	必修・選択	副教材名	歴史総合演習ノート	
科目の目標		社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関わる様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。						
学習の内容と進め方		・近代と私たち、国際秩序の変化や大衆化と私たち、グローバル化と私たちについて学習し知識と判断力を身につける。 ・歴史についての話題について考える。 ・講義形式で展開するため、ノート、プリント、課題等は丁寧に記録すること。						
学習の留意点		・歴史について興味を持ち積極的に望む事。 ・課題解決学習に取り組み、考察を深める。						
評価の観点	知識・技能	歴史に関する知識が身につけているか、資料を活用できているか。						
	思考・判断・表現	歴史的事象を多角的に捉え、その影響や意義を判断し表現できるか。						
	主体的に取り組む態度	歴史について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況に達している。					
		B	歴史に関する知識が身につけているか、資料を活用できているか。					
		C	Bの状況に達していない。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況に達している。					
		B	歴史的事象を多角的に捉え、その影響や意義を判断し表現できるか。					
		C	Bの状況に達していない。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況に達している。					
		B	歴史について興味関心を持ち、意欲的に取り組んでいるか。					
		C	Bの状況に達していない。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	1	歴史の扉 第1編 近代化と私たち 第1章 近代化への胎動 1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2 江戸時代の生産・流通と諸改革 3 幕政の改革と東アジア世界	オリエンテーション 1 歴史と私たち—ダンスからみるいまと昔 2 歴史の特質と資料—「装い」は何を語るのか 1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2 江戸時代の生産・流通と諸改革 3 幕政の改革と東アジア世界	○	○	○	ノート ワーク プリント 課題
		2						
		1						
		2						
		2						
		2						
	5	1	第2章 欧米の市民革命と東アジア世界	4 イギリス革命とアメリカ独立戦争 5 フランス革命とウィーン体制 6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7 オスマン帝国の衰退とロシア 8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9 江戸幕府の滅亡 10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一	○	○	○	小テスト 発表
		2						
		2						
	6	2	第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成	1 明治政府の諸改革 2 日本のアジア外交と国境問題 3 自由民権運動と大日本帝国憲法	○	○	○	
		2						
		2						
7	2	第4章 帝国主義の時代	1 4 帝国主義の時代へ 1 5 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 1 6 日清戦争後の東アジア 1 7 日露戦争と東アジアの変動 1 8 日本の産業革命	○	○	○		
	1							
	1							
小計		27						
二 学 期	8	1	第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	1 9 第一次世界大戦 2 0 ロシア革命とソ連の成立 2 1 米騒動とデモクラシー 2 2 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 2 3 アジアの民族運動 2 4 第一次世界大戦後の欧米諸国 2 5 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 2 6 世界恐慌と各国の対応 2 7 ファシズムの時代 2 8 満州事変と軍部の台頭 2 9 日中戦争と戦時体制 3 0 第二次世界大戦の勃発 3 1 第二次世界大戦の終結 3 2 国際連合の成立と冷戦 3 3 日本占領と日本国憲法 3 4 朝鮮戦争と日本	○	○	○	ノート ワーク プリント プリント 課題 小テスト 発表
		1						
		1						
		2						
		2						
		2						
	9	2	第6章 経済危機と第二次世界大戦	2 7 ファシズムの時代 2 8 満州事変と軍部の台頭 2 9 日中戦争と戦時体制 3 0 第二次世界大戦の勃発 3 1 第二次世界大戦の終結 3 2 国際連合の成立と冷戦 3 3 日本占領と日本国憲法 3 4 朝鮮戦争と日本	○	○	○	小テスト 発表
		2						
		2						
	10	2	第3編 グローバル化と私たち 第7章 冷戦と脱植民地化	3 5 植民地の独立 3 6 ミソ両陣営の動揺 3 7 日本の国際社会復帰と高度経済成長 3 8 石油危機と世界経済 3 9 緊張緩和から冷戦の終息へ 4 0 日本の経済大国化	○	○	○	ノート ワーク プリント 課題 小テスト 発表
		2						
		0						
小計		28						
三 学 期	1	1	第9章 グローバル化と現代世界	4 1 地域紛争と対立 4 2 国際秩序の変容	○	○	○	ノート ワーク プリント 課題 小テスト 発表
		2						
		0						
	2	0						
		0						
		0						
3	0							
	0							
	0							
小計		5						
合計		60						

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	改訂版 新 高校の数学A(数研)			
3	数学	数学A	2	我妻 伸也	必修	副教材名	改訂版 教科書学習ノート数学A			
科目の目標		数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成すること。								
学習の内容と進め方		問題解決型学習により進める。								
学習の留意点		計算能力(処理速度)よりも数学的理解に重きを置いた学習姿勢を望む。								
評価の観点	知識・技能	数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。								
	思考・判断・表現	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につけることができる。								
	主体的に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。								
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	数学Aにおける基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。							
		C	Bに達していない。							
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身につけることができる。							
		C	Bに達していない。							
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。							
		B	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。また、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしている。							
		C	Bに達していない。							
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等		
					知	思	主			
一 学 期	4	0	1章 場合の数と確率	1節 場合の数	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト		
		2								
		2								
		2								
		2								
		2								
	5	2			2節 確率	○	○		○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		2								
		2								
		2								
	6	2					○		○	
		2								
		2								
		2								
7	2			○	○					
	2									
	2									
	0									
小計	30									
二 学 期	8	0	2章 図形の性質	1節 平面図形	○	○	○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト		
		2								
		0								
		2								
		2								
		2								
	9	2			2節 空間図形	○	○		○	学習状況 プリント ワーク 単元テスト
		2								
		0								
		2								
	10	2					○		○	
		2								
		2								
		2								
11	2			○	○					
	0									
	0									
	2									
12	2			○	○					
	2									
	2									
	0									
小計	26									
三 学 期	1	0	3章 数学と人間の活動		○	○	○	学習状況 プリント 単元テスト		
		2								
		2								
		0								
		0								
		0								
	2	0					○		○	
		0								
		0								
		0								
3	0			○	○					
	0									
	0									
	0									
小計	4									
合計	60									

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書		
3	保健体育	体育	2	吉田 和輝	必修	副教材名		
科目の目標		運動の合理的、計画的な実践を通して、楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。生涯にわたって運動を継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、協力する、責任を果たす、参画する、1人1人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。						
学習の内容と進め方		各学習内容について、安全と個々の技術や体力に配慮しながら、課題解決のため主体的に取り組む事ができるよう進めて行きます。						
学習の留意点		安全に配慮し、個々の力を尊重しあい、協力しながら学習に取り組みましょう。						
評価の観点	知識・技能	体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識と運動の実践を通して、各領域の特性や楽しさを味わうとともに、技能や攻防ができていくか。						
	思考・判断・表現	自他の課題を発見し、合理的で計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができていくか。						
	主体的に取り組む態度	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、違いを尊重しようとする意欲を持ち、健康、安全を確保できているか。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	基本的な体の動かし方や用具の操作方法を理解し、各領域の基本的な技能を身に付けている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	各領域において課題を見つけ、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間が考えたことを他者に伝えている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	他と協調しながら安全に配慮し主体的に取り組もうとしている。					
		C	Bの状況に達成していない段階にある。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学期	4	1	オリエンテーション (1時間)	体ほぐし、体力を高める運動	○	○	○	取り組み スキルテスト 記録、レポート
		2	体づくり運動・集団行動 (4時間)					
		2	スポーツテスト (4時間)					
	5	0	器械運動 (10時間)	マット運動 (回転系・巧技系)の発展技、自由演技	○	○	○	
		2						
		2						
	6	2	パークゴルフ (8時間)	ルール、マナー、道具の使い方 地域との連携	○	○	○	
		2						
		2						
	7	2	体育理論 (2時間)		○	○	○	
		2						
		0						
小計		29						
二 学期	8	0	選択1 (10時間) (バレーボール・バスケットボール)	基本動作、ルール、ゲーム 運動の計画と実践、振り返り	○	○	○	
		2						
		0						
	9	2	陸上競技 (4時間)	短/長距離走、リレー	○	○	○	
		2						
		2						
	10	2	選択2 (9時間) (バドミントン・卓球)	基本動作、ルール、ゲーム 運動の計画と実践、振り返り	○	○	○	
		2						
		2						
	11	2	体育理論 (4時間)		○	○	○	
		1						
		0						
12	2			○	○	○		
	2							
	0							
小計		27						
三 学期	1	0	体づくり運動 (4時間)	体ほぐし、体力を高める運動	○	○	○	
		2						
		0						
	2	0						
		0						
		0						
	3	0						
		0						
		0						
	小計		4					
	合計		60					

教科 科目 単位数	芸術 書道 I 2	受信校	北海道苫前商業高等学校	学科 学年(年次) 履修・実施	商業科 第三学年 必修・一斉
教科書 副教材	「新編 書道 I」(大修館書店)				

1 目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) 書によさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月告示)より)

2 学習のポイント

(1) 作品制作のポイントの整理や鑑賞活動などにワークシートを使用しますので、活用してください。

(2) ほぼ毎時間、自分で写真を撮影して classroom を通して作品を提出します。

(3) 試験は実施しません。毎回の提出作品やポートフォリオへの記述、取り組みの様子などをもとに評価をします。書道 I では、作品制作のための技術を身に付ける学習だけではなく、様々な学習活動を行い、評価をします。

(4) この科目では、実技だけではなく、根拠をもって作品を鑑賞する活動や、制作する上で自分自身が考えたことを記述するといった活動があります。考えたことや感じたことを、積極的に文章や発言で表現するように心がけてください。

(5) 友達と作品の相互批評や、話し合いの場面も多くあります。積極的に参加してください。

(6) 実技教科なので用具・用材は大切です。直接作品に影響が出ますので、大切に扱ってください。

3 学習の評価

(1) 評価の観点と規準

次の3つの観点に基づいて内容や時間のまとまりごとに「A・B・C」の3段階で評価を行い、学年末に5段階評定へと総括します。

①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書によさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法と観点の関連 (◎ = 特に関連の深いもの)

	評価方法\観点	①	②	③	主な対象
ア	学習活動の観察	○	○	◎	学習活動の取組
イ	ワークシート	○	◎	◎	FigJam、ワークシート、ポートフォリオ等への記述
ウ	作品	◎	○	○	提出作品
総括時の比率		1	1	1	

4 その他

<遠隔授業について>

(1) 授業者は対面授業時を除き、基本的に配信校から授業をします。授業中の質問や疑問等については随時対応しますが、申し出にくい場合などについては、教室にいる受信担当の先生に申し出ても構いません。

(2) 授業者が現地にはいない分、皆さんの積極的な活動がより一層重要になります。メリハリをもって活動したり、わからないところを互いに教え合ったりすることは特に重要です。ぜひ、一緒に授業を「作っていく」つもりで参加してください。

(3) その他の遠隔授業の特性についてはオリエンテーション時に説明します。

<学習の支援について>

(1) 授業について、不安なことや気になること、配慮して欲しいことなどがあれば、可能な範囲で個別対応します。直接相談しにくい場合は、classroom やポートフォリオに書いてもらっても構いません。

5 年間授業計画 (計 60 時間)

月	○題材 ●主な教材	配当 (時)	【学習領域】 ・主な学習内容 □対面授業 ◇テスト等	目標・ねらい	観点ごとの 主な評価の対象 ①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度
4 / 5	○オリエンテーション	2	・書道 I の学習について ・書表現の多様性について知る。	高等学校における書道の学習について見通しをもつことができる。 端末の使用方法について理解することができる。	年間を通して以下の項目を主な評価の対象とする。 ①ワークシートへの記述状況、提出作品 ②ワークシートへの記述状況 ③取組の状況、ワークシートへの記述状況、提出作品
	○漢字の書の学習① 篆刻の学習 ●様々な篆刻作品	6	□対面授業① (予定) 【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆刻についての理解を深める。 ・様々な篆刻作品に親しむ。 ・自分の落款印を制作する。	篆刻の歴史や用途についての理解を深め、様々な篆刻作品の作風があることを理解できる。 自分なりの落款印を制作することができる。	
	○漢字の書の学習② 書風と結構法 ●九成宮醜泉銘 ●孔子廟堂碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書の基本用筆を学ぶ。 ・様々な楷書の表現の習得。	基本的な楷書の筆使いを学ぶ。 初唐の三大家の書を学び、同じ楷書の表現にも違いがあることを理解し、表現することができる。	
	○漢字の書の学習③ 多様な筆使い ●雁塔聖教序 ●顔氏家廟碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・入筆に注意して書く。 ・筆圧のかけ方による表現の違い。	入筆には様々な表現があることを知り、留意しながら書くことができる。筆圧の違いによる表現の差異に気づいて表現できる。	
6	○漢字の書の学習④ 行書の基本用筆 ●蘭亭序	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・行書の基本用筆を学ぶ。 ・蘭亭序のよさを味わう。	蘭亭序の歴史的背景を理解することができる。行書の持つリズムや流れを意識して表現することができる。	
	○漢字の書の学習⑤ 様々な行書の筆使いと書風 ●祭姪稿 ●風信帖	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・蘭亭序とは異なる行書の表現を学ぶ。 ・それぞれの古典の書かれた背景を理解して味わう。	それぞれの古典が書かれた背景の理解を通して、線質や字形から作者の感情を感じ取ることができる。勢いのある行書の表現をすることができる。	
7	○漢字の書の学習⑥ 漢字創作 ●自選の漢字	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・漢字創作 ・画仙紙に文字を書く	これまでの古典の学習を踏まえながら、自分なりの意図に応じた書表現を工夫することができる。	
8	○漢字の書の学習⑦ 篆書の用筆と運筆 ●泰山刻石	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・篆書の基本的な筆使いの習得	篆書の筆使いである、藏鋒、中鋒を習得し、篆書の特徴的な文字造形を表現できる。	
9	○漢字の書の学習⑧ 隷書の筆使いと字形 ●曹全碑	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・隷書の基本的な筆使いの習得	隷書に親しみ、波磔や転折などの特徴的な筆使いを表現することができる。	
	○漢字の書の学習⑨ 草書の用筆と運筆 ●書譜	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・草書の基本的な筆使いの習得	草書特有の流動美や文字造形を理解するとともに、基本的な草書の筆使いができるようになる。	

令和8年度 遠隔授業配信シラバス

10	○仮名の書① 仮名の基本的な筆使い ●いろは歌 ●連綿 ●蓬萊切	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・仮名に親しむ ・仮名の基本的な筆使いの習得	仮名の基本的な筆使いをできるようにする。文字の大小、行の流れ、墨の付け方に気をつけながら「蓬萊切」を書くことができる。
	○仮名の書② 散らし書き ●三色紙	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・色紙の表現を味わう	色紙の表現を味わい、意図について考えることができる。古典の散らし方を学び、表現することができる。
	○仮名の書③ 仮名の創作 ●自選の和歌	2	【A 表現】【B 鑑賞】 ・散らし書きの創作	仮名の基本的な用筆を生かして、自選の和歌を表現することができる。意図に応じた構成や表現に向けて工夫することができる。
11 ・ 12	○漢字仮名交じりの書の学習① ●海遠い海よ ●様々な現代の詩歌	2	【B 鑑賞】 ・漢字仮名交じりの書に触れる。 ・様々な表現を味わう。	漢字仮名交じりの書の歴史を学び、どのような書なのかを理解する。美術館に所蔵されている道内ゆかりの書作品に触れ、作者の表現の意図について分析することができる。
	○漢字仮名交じりの書の学習② 筆脈と字形 ●様々な現代の詩歌	6	【A 表現】【B 鑑賞】 ・楷書を応用した表現 ・行書を応用した表現	これまで学習してきた楷書や行書の用筆を生かした表現をすることができる。筆脈や字形に留意して表現の幅を広げることができる。
1	○漢字仮名交じりの書の学習③ カレンダー制作 ●自選の言葉	4	【A 表現】【B 鑑賞】 ・構成の工夫 ・作品の構想・工夫 □対面授業②（予定）	自選の言葉をどのように表現したいのか考え、古典の応用・構成の工夫と行った視点を加味しながら、自分なりの表現をすることができる。
	○一年間のまとめ ●ポートフォリオに蓄積した自分の作品	2	・一年間の学習の振り返り	自分のこれまでの書道の学習を振り返り、自分自身ができるようになったことを確認する。

※年間を通して、【鑑賞】の学習領域の活動を帯単元として行う予定。

※適宜、他者の作品を批評する活動や、意見交換しながら作品の構想、工夫をする活動を行う。

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	Amity English Communication I・II		
3	外国語	英語コミュニケーションII	2	松下 広希	必修	副教材名	グリーン・ブレッブ イングリッシュ[第3版]		
科目の目標		英文の理解、音読、聴解、作文、対話等をバランスよく学び、習得させる。							
学習の内容と進め方		上記の目標を達成するために、教科書、単語集の他、様々な教材を利用する。							
学習の留意点		生徒個々人の能力、得意分野を配慮し興味関心を持たせ、卒業後の自学自習につなげられるように実施する。							
評価の観点	知識・技能	基本的な英単語や文法を理解し、運用できること。							
	思考・判断・表現	場面に応じて、自分の表現したいことを、適切な英語表現で表すことができること。							
	主体的に取り組む態度	苦手な分野であっても、他と協力し合いながら積極的に探究、発表ができること。							
評価規準	知識・技能	A	英語の理解・運用が優れており、ALTとも自立してコミュニケーションを図れること。						
		B	英語の基礎的な知識を用いて、ある程度自己表現をし、ALTとも日本語を混ぜながらコミュニケーションを図れること。						
		C	今後も著しい努力を要すること。						
	思考・判断・表現	A	ALTとの対話や、その場に応じて自分の主張を英語で展開できること。						
		B	場面に応じて、適切な単語を選択し、ある程度自己表現ができること。						
		C	今後も著しい努力を要すること。						
	主体的に取り組む態度	A	教員の指示なしに、英語それ自身の学習のみならず、背景知識の習得に積極的であること。						
		B	自立した思考・判断、および学習がある程度できること。						
		C	今後も著しい努力を要すること。						
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等	
					知	思	主		
一学期	4	0	Lesson 3	ダンスの力	○	○	○	課題	
		2	【ブ】 ユニット1~2 (P14~25)	月名、アルファベット	○		○		
		2							
		2	Lesson 4	世界の絶滅危惧種	○	○	○		課題
	5	2	【ブ】 ユニット3~4 (P26~37)	代名詞、be動詞	○	○	○	発表	
		2	【バ】 Tell me about your trip		○	○	○		
		2							
		2	Lesson 5	チョコレートの歴史	○	○	○		課題
	6	2	【ブ】 ユニット5~6 (P38~49)	過去形、疑問文・否定文	○		○		
		2							
		2							
		2							
7	2		全商英検対策	○		○			
	2								
	2								
	0								
小計		30							
二学期	8	0		全商英検対策	○		○		
		2							
		0	Lesson 6	私達の学校	○	○	○		課題
		2	【ブ】 ユニット7~8 (P50~61)	疑問文・進行形	○	○	○		発表
	9	2	【バ】 My emotional Experience		○	○	○	発表	
		2			○	○	○	発表	
		2							
		2	Lesson 7	セレンディビティ	○	○	○	課題	
	10	2	【ブ】 ユニット9 (P62~65)	canとmust	○		○		
		2							
		2							
		2	Lesson 8	サプール	○	○	○		課題
11	2	【ブ】 ユニット10 (P66~73)	be going toとwill	○	○	○	発表		
	0	【バ】 Let's keep on speaking for minutes		○	○	○			
	0								
	2								
12	2								
	2	Lesson 9	特殊メイク	○	○	○			
	2								
	0								
小計		26							
三学期	1	0	【ブ】 ユニット11 (P74~77)	現在完了	○	○	○	課題	
		2	【バ】 My speech		○	○	○		発表
		2	Lesson 10	安全な水	○	○	○		課題
		0	【ブ】 ユニット12 (P78~84)	不定詞	○		○		
	2	0							
		0							
		0	まとめ等		○	○	○	課題	
		0							
	3	0							
		0							
		0							
		0							
小計		4							
合計		60							

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書			
3	商業	課題研究	2	高橋・成田・藤田	必修	副教材名	_____		
科目の目標		・商業に関する基礎的、基本的な学習の上に立って、商業に関する課題を自ら設定し、学び、考え、主体的に判断し、よりよく課題を解決する学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、自ら課題を発見し解決する能力や自発的、創造的な学習に取り組むなど、主体的な学習態度を身につける。							
学習の内容と進め方		・地元のPRを目的とした商品開発（企業へのプレゼン（企画・試作等）） ・地元の観光資源の開発企画（吉前町・古丹別の観光ガイド、観光地図作成等） ・販売企画（販路の開拓～継続的な販売を目標とする、イベントでの販売）							
学習の留意点		・この授業は、自ら学び、考え、判断する力を養うことを目的としています。主体的かつ積極的に取り組みましょう。 また、調査・研究・実験が多くなるので、毎時間の記録をとり、日誌をまとめていきましょう。体験発表会では、研究の成果についてプレゼンテーションソフトを用いて発表します。どの年代にもわかりやすい発表となるようまとめましょう。							
評価の観点	知識・技能	・商業の各分野に関する知識・理解がある。 ・商業の専門用語に関する知識・理解がある。							
	思考・判断・表現	・毎時間、的確な自己反省ができ、さらに、反省に基づいて工夫しながら取り組むことができる。 ・調査、研究、実験の結果を科学的に捉え、考察し、判断できる。							
	主体的に取り組む態度	・商業の各分野における諸課題に関心を持ち、研究活動に積極的に取り組んでいる。							
評価規準	知識・技術	A	Bを上回る状況を達成している。						
		B	商業の各分野の学習で身に付けた知識と技術について、実務に即して深化・総合化を図り、課題の解決に生かすことができる知識と技術を身に付ける学習の目的や意義を理解し、課題・調査研究に関する基礎的な知識と技術を身に付けている。						
		C	Bの状況に達成していない段階である。						
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。						
		B	ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫をしてよりよく解決する力課題解決をはじめとして様々な知識、技術を身に付ける学習の目的や意義を理解し、課題・調査研究に関する基礎的な知識と技術を身に付けている。						
		C	Bの状況に達成していない段階である。						
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。						
		B	課題を適切に展開する力の向上を目指し、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、調査研究の創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。						
	C	Bの状況に達成していない段階である。							
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等	
					知	思	主		
一 学 期	4	0	オリエンテーション					課題	
		4	課題設定	課題設定	○			日誌 ノート	
		2	商品開発・観光等グループ設定	分野別グループ設定		○			
		0	調査研究						
	2						発表		
	3								
	1								
	5	1			商品開発				
		1							
		3							
	6	0							
		4							
		1							
		1		テーマ別研究発表	途中経過発表				
	7	1							
2									
0									
小計		28							
二 学 期	8	0	調査研究					課題	
		2		調査研究		○		日誌 ノート	
		2					○		
		1							
	2						発表		
	2								
	4								
	10	2		企業等へ企画書等提出	企業等へ企画書等提出				
		2							
		1							
	11	1							
		1							
		3							
	12	2							
		2							
3			まとめ						
0									
小計		32							
三 学 期	1	0							
		0							
		0							
	2	0							
		0							
		0							
	3	0							
		0							
		0							
		0							
小計		0							
合計		60							

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	ビジネス法規(東京法令出版)	
3	商業	ビジネス法規	2	成田 治男	必修	副教材名		
科目の目標		商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体系的な学習活動を行うことなどを通して、法規に基づくビジネスの展開に必要な資力・能力を次のとおり育成することを旨とする。 (1) ビジネスに関する法規について実務に即して体系的・系統的に理解できるようにする。 (2) 法的側面からビジネスに関する課題を整理し、ビジネスに携わる者として法的な観点に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、法規に基づくビジネスに主体的かつ協働的に取り組む力を養う。						
学習の内容と進め方		・法の適用、企業活動と法規、知的財産権と法規、税と法規、企業責任と法規に関する基礎的な知識と判断力を身につける。 ・新聞やニュース、日常生活の中からタイムリーな話題について法律と結びつけながら考える。 ・講義形式で展開するため、ノート、プリント、課題等は丁寧に記録すること。						
学習の留意点		・新聞や報道、経済の動向や情報に興味関心を持ち、国内外の動向を知る。 ・日常生活の中にある「法律」を意識する。						
評価の観点	知識・技能	ビジネスにおける法の役割や意義を理解し、法の適切な取り扱いができる。						
	思考・判断・表現	状況を理解し、適切な法の適用ができる。						
	主体的に取り組む態度	その場面に応じた、適切な言動ができる。						
評価規準	知識・技能	A	Bをうわまわる状況					
		B	ビジネスにおける法の役割や意義を理解し、法の適切な取り扱いができています。					
		C	Bの状況に達成していない段階					
	思考・判断・表現	A	Bをうわまわる状況					
		B	状況を理解し、適切な法の適用ができています。					
		C	Bの状況に達成していない段階					
	主体的に取り組む態度	A	Bをうわまわる状況					
		B	その場面に応じた、適切な言動ができています。					
		C	Bの状況に達成していない段階					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一学期	4	1	オリエンテーション	1 年間の学習内容の確認				
		2	第1章 法の概要	1 法の意義 2 法の役割			○	ノート
		2	1節 ビジネスにおける法の役割	1 法の体系 2 法の分類 3 法の解釈			○	プリント
		2	2節 法の体系と解釈・摘要	1 権利と義務の概要			○	課題
		1	3節 権利・義務と財産権	2 制限行為能力者制度			○	小テスト
		2		3 物件の概要 4 債権の概要			○	発表
	5	2	第2章 企業の活動と法規	1 契約の概要①～⑥			○	
		2	1節 契約	1 雇用契約・消費貸借契約			○	
		2	2節 企業活動における契約	2 売買契約①～④ 3 賃貸借契約①～④			○	
		2		4 債権の管理と回収①～⑨			○	ノート
		2		5 債権の消滅①②			○	プリント
		1	3節 株式会社の特徴と機関	6 契約外の権利義務の変動①～⑦			○	課題
	6	2	4節 資金調達と金融取引	1 株式会社の意義 2 地位と責任			○	
		2		3 株式の譲渡 4 資本と経営の分離 5 機関			○	
1			1 資金調達の方法 2 金融商品に関する法規			○	小テスト	
2			3 資金の調達や運用と金融取引の現状・課題			○	発表	
7	1	5節 組織再編と清算・再建	4 金融商品の消費者保護			○		
	2	6節 競争秩序の確保	5 電子記録債権			○		
	1		1 組織再編①② 2 企業の清算・再建			○		
	0		1 企業活動の制限①②			○		
小計		26						
二学期	8	1	第3章 税と法規	1 税の種類と分類				
		2	1節 税の種類と法人の納税義務	2 税額決定の考え方・法人の納税義務			○	ノート
		1	2節 法人税の申告と納付	1 企業会計と税務会計			○	プリント
		2	3節 消費税の申告と納付	2 法人税の申告と納付の仕組み			○	課題
		1		1 消費税①②			○	小テスト
		2					○	発表
	9	2	第4章 企業責任と法規	1 法令順守と説明責任				
		2	1節 法令順守(コンプライアンス)	1 労働基本法と労働基準法			○	ノート
		2	2節 労働者の種類	2 労働組合法・労働関係調整法			○	課題
		2		3 労働者保護に関する規定と考え方①②			○	小テスト
		2	3節 消費者の保護	4 その他の主要労働法 5 働き方改革			○	発表
		2	4節 情報の保護	6 労働者保護の重要性と課題			○	
	10	2	5節 紛争の予防と解決	1 消費者基本法 2 消費者契約法				
		2		3 特定商品取引法 4・5 割賦販売法				
2			6 製造物責任法					
2			1 個人情報保護法・不正アクセス禁止法など					
11	2		2 情報の保護の重要性と課題					
	2		1 紛争の予防 2 紛争の解決①～④					
	2							
	2							
12	2	事例研究						
	1							
	1							
	1							
小計		31						
三学期	1	1	検定対策					
		1					○	プリント
		0					○	課題
	2	0					○	小テスト
		0					○	発表
		0					○	検定試験
		0						
3	0							
	0							
	0							
小計		3						
合計		60						

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	原価計算（実教出版）					
3	商業	原価計算	2	高橋・藤田	必修	副教材名	—————					
科目の目標		<small>商業の能力・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、原価情報の提供と活用に必要な資質・能力を次のとおりに育成することを旨とする。 (1) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 原価計算、原価計算に関する会計処理及び原価情報の活用する方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を養う。 (3) 企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力及び原価管理を行う力の向上を目指して自ら学び、適切な原価情報の提供と効果的な活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</small>										
学習の内容と進め方		・原価計算に関する内容を教科書やプリントを用いて理解を深め、問題集を用いて知識及び技術を定着する。										
学習の留意点		・学習内容が専門的になるため、メモや解き方を思考する習慣をつける。										
評価の 観点	知識・技能	製造業の特徴や原価の意味、原価の基本的な理論について、その知識や技術を身に付けている。										
	思考・判断・表現	製造業において発生する取引と決算手続きを思考し、基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。										
	主体的に取り組む態度	原価計算について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、適切な原価情報の提供と効果的に活用する態度を身に付けている。										
評価 規準	知識・技術	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	製造業の特徴や原価の意味、原価の基本的な理論について、その知識や技術を身に付けている。									
		C	Bの状況に達成していない段階である。									
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	各種の原価計算の方法や記帳法、原価情報の活用などについて、基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。									
		C	Bの状況に達成していない段階である。									
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。									
		B	原価計算について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して取り組むとともに、適切な原価情報の提供と効果的に活用する態度を身に付けている。									
		C	Bの状況に達成していない段階である。									
学期	月	予定 時数	単 元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等				
					知	思	主					
一 学 期	4	1	第1編 原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・原価と原価計算 ・原価計算のあらまし ・工業簿記－製造業における簿記－ 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・自発的発問や回答 ・単元テスト 				
		2				○	○					
		2				○	○					
		1				○	○					
	5	2	1	第2編 原価の費目別計算	<ul style="list-style-type: none"> ・労務費の計算 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・自発的発問や回答 ・単元テスト 			
						2		○		○		
						2		○		○		
						2		○		○		
	6	2	2			○	○	○				
						○	○	○				
						○	○	○				
						○	○	○				
7	2	0			○	○	○					
					○	○	○					
					○	○	○					
					○	○	○					
小計		26										
二 学 期	8	1	第3編 原価の部門別計算と製品別計算	<ul style="list-style-type: none"> ・個別原価計算 ・工程別総合原価計算 ・総合原価計算による減損・仕損じなどの処理 ・総合原価計算による減損・仕損じなどの処理 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・自発的発問や回答 ・単元テスト 				
					2		○		○			
					1		○		○			
					2		○		○			
	9	2	1	第4編 製品の完成・販売と決算	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の完成と販売 ・決算と本社・工場間の取引 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・自発的発問や回答 			
						2		○		○		
						2		○		○		
						2		○		○		
	10	2	2	第5編 標準原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・原価管理と標準原価計算 ・標準原価計算の特色、手続き、原価標準の設定 ・標準原価の計算 ・実際原価の計算 ・原価差異の計算と分析 ・標準原価計算の記帳法 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・自発的発問や回答 ・単元テスト 			
						2		○		○		
						1		○		○		
						2		○		○		
11	2	2			○	○	○					
					○	○	○					
					○	○	○					
					○	○	○					
12	2	0			○	○	○					
					○	○	○					
					○	○	○					
					○	○	○					
小計		28										
三 学 期	1	2	第6編 直接原価計算の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・利益計画と直接原価計算 ・直接原価計算の特色 ・直接原価計算の手続き ・直接原価計算による損益計算書 ・CVP分析 	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント ・自発的発問や回答 ・単元テスト 				
		2				○	○					
	0				○	○						
	0				○	○						
	2	0			0				○	○	○	
									○	○	○	
									○	○	○	
									○	○	○	
	3	0			0				○	○	○	
									○	○	○	
○			○	○								
○			○	○								
小計		6										
合計		60										

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書	プログラミング (マクロ言語) 実教出版																			
3	商業	プログラミング(3年)	2	松野郷 圭介	必修	副教材名	情報処理検定 (プログラミング部門) 2級問題集																			
科目の目標		実習を通して実践的・体験的な学習活動を行う、企業活動に有用なプログラムと情報システム開発に必要な資質・能力を育成することを目指す。																								
学習の内容と進め方		教科書例題をもとに実習課題に取り組みながら、プログラミングの手順とアルゴリズムを学習する。																								
学習の留意点		3章プログラムと情報システムの開発に関しては実習を通して実際に体験しながら学習する。																								
評価の観点	知識・技能	授業内テスト (学期に1回実施)																								
	思考・判断・表現	実習課題の作成と実行・デバッグ																								
	主体的に取り組む態度	実習課題の設計 (外部設計・内部設計・プログラム設計)																								
評価規準	知識・技能	A	授業内考査の到達度が全体の80%以上																							
		B	授業内考査の到達度が全体の31~79%																							
		C	授業内考査の到達度が全体の30%以下																							
	思考・判断・表現	A	実習評価の到達度が全体の80%以上																							
		B	実習評価の到達度が全体の31~79%																							
		C	実習評価の到達度が全体の30%以下																							
	主体的に取り組む態度	A	設計評価の到達度が全体の80%以上																							
		B	設計評価の到達度が全体の31~79%																							
		C	設計評価の到達度が全体の30%以下																							
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等																		
一 学 期	4	1	オリエンテーション	授業の進め方・評価の基準 3 プログラミングの手順 教科書例題を用いて「入力」「実行」「デバッグ」の手順を反復し学習 ・課題1 (順次処理) ・課題2 (繰返処理For~Next) ・課題3 (繰返処理Do~While) ・課題4 (条件判定If~Then~) ・課題5 (条件判定If~Then~else) ・課題6 フォームを使う順次処理 ・課題7 フォームを使った複利計算 ・課題8 Bリーグ観客動員数の分析 (1学期単元テスト) (1学期単元テスト)	知	思	主																			
		2	1章 情報システムとプログラミング																							
		2	2章 アルゴリズム																							
	5	2	実習と並行して関連知識の解説 5章 ハードウェアとソフトウェア 1 データの表現 2 ハードウェアの機能と動作 3 ソフトウェアの体系と役割 4 情報セキュリティ						・課題9 最大値と最小値 ・課題10 リサイクルショップの買取分析 ・課題11 苫前町風力発電の分析 (配列) ・課題11 苫前町風力発電の分析 (配列) ・課題12 道の駅来客数 (線形探索) ・課題14 チカホ通行量分析 (線形探索) ・課題15 苫商開発商品集計 (グループツール) ・課題16 管内公式グッズ集計 (二次元配列) ・課題17 顧客カルテ (二分探索) (2学期単元テスト)	○	○	○														
		2																								
		2																								
		2																								
	6	2											・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○										
		2																								
		2																								
	7	2															・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○						
		2																								
		2																								
	0	小計																			31					
	二 学 期	8																			1	・課題9 最大値と最小値 ・課題10 リサイクルショップの買取分析 ・課題11 苫前町風力発電の分析 (配列) ・課題11 苫前町風力発電の分析 (配列) ・課題12 道の駅来客数 (線形探索) ・課題14 チカホ通行量分析 (線形探索) ・課題15 苫商開発商品集計 (グループツール) ・課題16 管内公式グッズ集計 (二次元配列) ・課題17 顧客カルテ (二分探索) (2学期単元テスト)	○	○	○	
2																										
2																										
9		1		・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○																			
		2																								
		2																								
10		2	・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)					○	○	○																
		2																								
		2																								
11		2									・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○												
		2																								
		2																								
12		2													・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○								
		2																								
		1																								
小計	33																									
三 学 期	1	2																	・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○				
		2																								
		0																								
	2	0		・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○	○	○																			
		0																								
		0																								
3	0	・課題18 都道府県魅力度 (順位付け・バブルソート) (セレクションソート) (インサージョンソート)	○					○	○																	
	0																									
	0																									
小計	6																									
合計	70																									

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書		
3	商業	オロロンデザインⅡ	3	虎野正嗣・松野郷圭介	必修	選択	副教材名	
科目の目標		これまでに学んだ地域の歴史・文化・産業に関する知識・技術を活用し、ほっかいどう学「みち学習」を通して留萌管内を対象としたツアーやイベント等の有形・無形商品の企画立案をおこなう。						
学習の内容と進め方		とままえ基礎、オロロンデザインⅡで習得した知識や技術を活用し、オリジナル商品の企画と立案をおこなう。また、外部機関との連携を深め、実現の可能性をはかる。						
学習の留意点		考查の実施はありません。普段の授業での取り組みが評価につながります。提出物等は自分なりに丁寧に記入できるように取り組みましょう。						
評価の観点	知識・技能	留萌管内について、調査・研究した事柄を協働してまとめ、生徒相互に発表し、留萌管内を知り、理解を深めようとしている。						
	思考・判断・表現	留萌管内の魅力を知り、その魅力に自らの発想と発見を表現しようとしている。						
	主体的に取り組む態度	留萌管内に関心を寄せ、知ろうとする意欲をもって、留萌管内の魅力を見学などを通し積極的に取り組み、知る喜びを実感しようとしている。						
評価規準	知識・技能	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	学習の目的や意義を理解し、調査・研究のための基本的な技能を活用している。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	調査・研究の過程から、自らの発想と発見を表現しようとしている。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	留萌管内に関心をもち、その調査・研究に積極的に関わろうという意識をもち、校内外の人とコミュニケーションを図って取り組んでいる。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	1	事前学習・予備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・留萌管内の市町村調べ ・観光・みち学習について学ぶ ・管内の観光素材から各自テーマを設定する 	○	○	○	自主性 姿勢・態度 営業日誌記入 作成物
		3	予備学習					
		3	事前学習・予備学習					
	5	2	観光商品の企画立案①					
		2	〃					
		3	外部講師講和					
		2	観光商品の企画立案②					
		3	FW①留萌管内北方面					
		7	FW②留萌管内中部					
	6	7	FW③留萌管内南方面					
		2	観光商品の企画立案③					
		2	観光商品の具体化					
		2	〃					
	7	2	〃					
		2	中間発表					
0								
小計	50							
二 学 期	8	1	観光商品の具体化・修正	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表での助言を基に企画の修正を行う ・企画書の再考、提案用PPの修正 ・発表用原稿、リハーサル ・完成した企画を関係機関も含めてプレゼンをおこなう ・代表者発表 ・各自のテーマをイメージしたポスター及び動画を作成する 	○	○	○	自主性 姿勢・態度 営業日誌記入 作成物 作成物
		2	〃					
		2	〃					
	9	2	〃					
		2	〃					
		2	〃					
	10	2	発表準備					
		2	〃					
		2	発表					
	11	2	大権発表会					
		2	広報用ポスター・動画の作成					
		2						
		2						
		2						
		2						
12	2							
	2							
	0							
小計	33							
三 学 期	1	3	まとめ	学習の振り返り	○	○	○	自主性 姿勢・態度 営業日誌記入 作成物
		3						
		1						
	2	0						
		0						
		0						
	3	0						
		0						
		0						
小計	7							
合計	90							

令和8年度 シラバス

()

学年	教科	科目	単位数	担当教員	展開	使用教科書		
3	商業	トータルビジネス	3	高橋・松野・成田・虎野・藤田	必修	副教材名	_____	
科目の目標		商業の良方・考え方を働かせ実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスの実務に対する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習の内容と進め方		商業の良方・考え方を働かせ実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 商業の各分野について実務に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (2) ビジネスの実務における課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスの実務に対する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
学習の留意点		・これまで学習してきた商業科目を総合して実践する。自ら学び、考え、判断して問題を解決するために積極的に取り組む。 ・実際の職場環境を意識し、身だしなみ・言葉遣い・マナーに細心の注意を払うこと。また、書類の作成・押印は丁寧に扱う。 ・作成した書類は、必ず担当者、各部担当教員、各部リーダーの押印をしっかりとらえて正式書類とする。 ・この時間は、会社の出勤です。時間前に入室・出勤遅への押印を済ませていくこと。						
評価の観点	知識・技能	基本的なビジネスマナーができており、基本的な作業が正確にできる。						
	思考・判断・表現	状況を判断し適切な判断や対応ができる。						
	主体的に取り組む態度	さまざまな活動に対し、自ら進んで意欲的に取り組む。						
評価規準	知識・技術	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	基本的なビジネスマナーができており、基本的な作業が正確にできる。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
	思考・判断・表現	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	状況を判断し適切な判断や対応ができる。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
	主体的に取り組む態度	A	Bを上回る状況を達成している。					
		B	さまざまな活動に対し、自ら進んで意欲的に取り組む。					
		C	Bの状況に達成していない段階である。					
学期	月	予定時数	単元	具体的な学習内容	評価の観点			評価方法等
					知	思	主	
一 学 期	4	0	オリエンテーション 役割分担・企業訪問	販売実習会について ・ビジネスマナー指導、販売場所、消耗品確認 アンケート作成 ・情報収集、必要物品確認、コスト計画、CVP分析 ・広告方法の決定・作成、掲示計画（ポスター5月末、チラシ7月末 目標） ・取引先企業決定、仕入先一覧、仕入計画・販売計画書作成 企業とのアポイントメント、交渉計画 販売商品、売上目標高、広報の確認	○	○	○	営業日誌 作成物 姿勢態度
		3						
		3						
	5	1	販売商品選定 マナー指導・チラシ作成					
		2						
		3						
	6	1	商品知識					
		2						
		3						
	7	1						
		3						
		2						
小計		33						
二 学 期	8	1	販売マナー練習	試食会 プレゼンテーション資料作成	○	○	○	営業日誌 作成物 姿勢態度
		5						
		16						
	9	1	最終確認 振り返り 体験発表会に向けて準備					
		0						
		1						
	10	1						
		3						
		2						
	11	2						
		3						
		1						
12	0							
	2							
	1							
小計		45						
三 学 期	1	0	振り返り（1年間を通して） 引継ぎ資料作成	○	○	○	営業日誌 作成物 姿勢態度	
		8						
		4						
	2	0						
		0						
		0						
	3	0						
		0						
		0						
小計		12						
合計		90						